



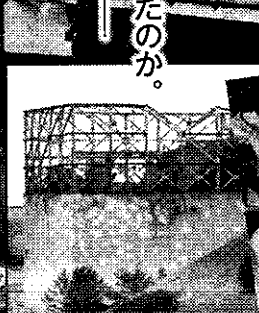
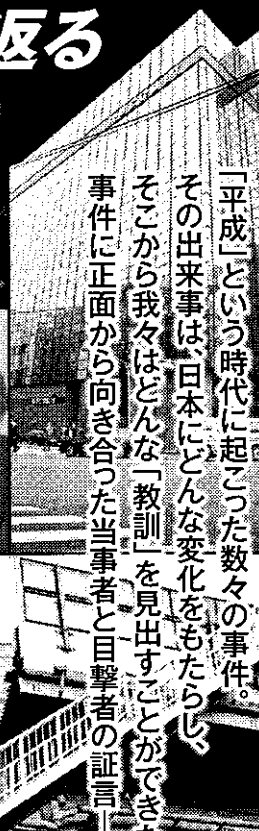
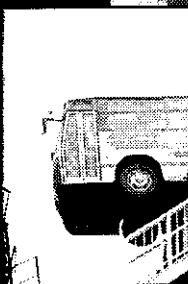
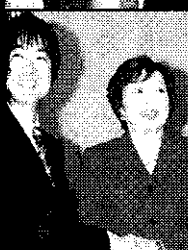
大型企画

当事者と目撃者が

振り返る

# 日本を変えた 平成51大事件

「平成」という時代に起こった数々の事件。その出来事は、日本にどんな変化をもたらした。そこから我々はどうな「教訓」を見出すことができたのか。事件に正面から向き合った当事者と目撃者の証言――



〔平成13年〕脱ダム宣言

現在の浅川ダム

巨額公共事業で  
地元は潤わない

田中康夫  
作家



平成十三年二月、田中康夫長野県知事は、県内のダム工事業業を見直す「脱ダム」宣言を発表した。公共事業に依存する風潮に風穴を空けた田中氏が当時の決断の背景を綴った。

を擁する長野県に於いては出来得る限り、コンクリートのダムを造るべきではない」。

信州・長野県知事として「『脱ダム』宣言」を発したのは二〇〇一年二月二十日。翌々日に開会した県議会で提出議案説明を行うや、「脱ダム」日本の背骨に位置し、数多の水源地

ム”せきを切るヤジ」「不満噴出  
対決色濃く」と新聞が見出しを付け  
ました。

北海道、岩手県、福島県に次いで  
四番目の面積を擁する長野県政を、  
五期二十年に亘って知事を務めた旧  
自治省出身者から引き継いだのは、  
前年十月末。九つの県営ダム建設事  
業が立案されていきました。

思春期を過ぎた松本市内を流れ  
る薄川の上流、美ヶ原の麓に計画さ  
れていたのは大仏ダム。旧建設省か  
ら出向の土木部長は囁きます。「知  
事が高校へ入学する前からの計画で  
す。ダムを造らねば松本駅前が水浸  
しになりますぞ」。不覚にも存じ上  
げませんでした。

駅近くの栄橋の上で部長から説明  
を受けた僕は質問します。随分と土  
砂が堆積してはいますが、浚渫は？ 同  
行の土木部員は口籠もります。作業  
記録が存在しませんでした。実施し

ていなかったのです。

ダム建設とは即ち、大外科手術を  
行わねば動脈瘤が破裂する話。なの  
に、調査費を既に十億円も投じなが  
ら、大仏ダムという手術は始まって  
いない。僕は訝ります。点滴や心肺  
蘇生に当たる浚渫や護岸の補修、保  
水力を高める針込混交林の整備を行  
わず、外科手術の実施のみを恣い焦  
がれるとは本末転倒だと。

重機を使って一平方メートル一万  
円程度で実施可能な河床掘削Ⅱ浚渫  
こそは、青息吐息な地元の土木建設  
業者が胸を張って行える地域密着型  
公共事業。公共事業のあり方を「造  
るから治す」へと改め、台風一過の  
秋口には県管理河川を一斉点検。県  
単独で数千万円規模の補正予算を組  
みました。

「巨大公共事業は地元を潤す」との  
看板にも偽りあり、と僕に教えてく  
れたのは、心ある一人の県職員でし

た。国の直轄事業ダムも、地方自治  
体が実施主体の補助事業ダムも、起  
債の償還分を含めて建設費の七割を  
国が負担します。地元負担は三割に  
「過ぎません」。他方で総事業費の八  
割は「中央」のゼネコンに環流し、  
「地元」雇用に繋がるのは二割に  
「過ぎません」。時代錯誤な租庸調の  
如きストロー現象です。

計画立案から六十三年を経て、漸  
く本體工事に着手した八ッ場ダム。  
豈図らんや、その本體工費は、五  
千億円近い総事業費の一割にも達し  
ません。本来は道路局や土地・建設  
産業局が担当すべき取り付け道路や  
家屋移転も全て、水管理・国土保全  
局Ⅱ旧河川局の予算に組み込まれて  
いるからなのです。

子供心に僕も感動した、東京五輪  
前年に竣工の黒部ダムに象徴される  
治水・利水の為の装置としてのダム  
建設ではなく、巨額の金額が渦巻く

装置としてのダム建設へと何時の間にか、目的が変容していたのです。

### 真の治水とは何か

冒頭で紹介した『脱ダム』宣言の前後に敢えて、「縦しんば、河川改修費用がダム建設より多額になろうとも、百年、二百年先の我々の子孫に残す資産としての河川・湖沼の価値を重視したい」と記したのは、「数百億円を投じて建設されるコンクリートのダムは、看過し得ぬ負荷を地球環境へと与え」、「何れ造り替えねばならず、その間に夥しい分量の堆砂を、此又、数十億円を用いて処理する事態も生じ」、それは浚渫や護岸の改修、森林の整備よりも明らかに「多額になろう」という逆説的深意でした。

日本の堤防は土と砂だけの土堤。コンクリート壁の隙間から水が浸潤

し、平時から内部は液状化現象を起こしがち。大雨で壁面が崩れると、一気に堤防全体が破堤する原因です。であればこそ、欧米諸国や隣国

の韓国では、過去に決壊した箇所、決壊が想定される箇所には堤防の両肩から基礎まで、鋼矢板を縦に二枚打ち込む強化策を導入しています。

膨大な費用と歳月を要するダム建設やスーパードームと異なり、地域を分断する家屋移転を伴わず、製鉄会社も地元業者もハッピーな公共事業。知事時代も国会議員時代も、その実現を求め続けました。が、「土堤原則」に固執する国交省は、堤防内に土と砂以外の「不純物」が混じるのは認められぬ、と難色を示すのです。如何なる科学的若しくは経済的根拠に基づくのでしょうか。

鬼怒川決壊直後に僕は「今回の惨劇の真犯人は誰だ！」とツイートしました。ドラマ『岸辺のアルバム』

で諸兄諸姉も記憶に留める一九七四年の多摩川水害。それは河川管理者の国に対して、住居を失った住民が起こした民事訴訟の事例。日本では過去に一度たりとも、業務上過失致死傷罪等で司直が河川管理者を糾した事例が存在しません。太古から治水こそは、為政者の最大の腕のふるい所にも拘らず。

大仏、下諏訪、蓼科を始めとする八つのダム計画を中止し、ダムに拠らない河川整備計画を敢行しました。唯一の例外は、善光寺から仰ぎ見る活断層の真上に計画されていた長野市の浅川ダム。冬季五輪ボブスレー会場への道路建設等で総事業費の半分を転用していたのを糊塗すべく、僕の退任後に計画が復活しました。

『脱ダム』宣言とは実は、政治や行政の覚悟と決断を問う提起でもあったのです。